

ID	受理日	番号	報告者名 工場	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
686	2007/10/26	70686	大塚製薬 工場	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナ リウム	健康なブタの 小腸粘膜抽 出物	米国、カナ ダ、中国	有効成分	有	無	無	エルシニア感 染	Pharma Medica 2007; 25: 171-175	ブタの臓物を食べた後、エルシニアに感染した国内症例2 例を報告する。1例は呼吸器感染症に罹患した例で、 Yersinia pseudotuberculosisが検出された。もう1例は急 性回腸末端炎と診断された例で、菌の同定はされなかつ たが、発症の背景と症状から本菌による感染が示唆され た。両症例ともPUFX(ブルリフロキサシン)投与により治 癒した。
												エルシニア感 染	Tidsskr Nor Laegeforen 2007; 127: 586-589	2006年にノルウェーで発生したエルシニア症アウトブレイ クにおいて、Yersinia enterocolitica血清型O:9が分離され た11例の患者について、レトロスペクティブな研究を行っ た。患者11例のうち9例が腸炎を有し、2例は敗血症で死 亡した。11例中10例がブタの頭から作られたビクルスを食 べていたことから、感染源はビクルスと推定されたが、感 染源は証明できなかった。
												旋毛虫症	Infection 2007; 35: 89-93	2001年にスロバキア南西部で起こった旋毛虫症について 疫学的調査を行ったところ、感染した豚肉や燻製豚肉製 品の採食に関連しており、4家族が感染していた。感染し た肉を食べた23名中11名の血清中に抗trichinella抗体が 検出され、6名が臨床症状を呈した。Multiplex PCR分析に よって、ブタ肉から分離された寄生虫の幼虫は同国では 稀にしか発生しないTrichinella spiralisと同定された。
												レンサ球菌感 染	ProMED- mail20070527.1707	2007年5月26日付けSouth China Morning Postによると、 香港の肉販売業アルバイトの54歳男性がこの地域で1ヶ 月以内に3人目のブタレンサ球菌犠牲者となった。中国本 土では2005年アウトブレイク以降、報告例はない。香港で は2006年に8例報告されている。
												レンサ球菌感 染	Dtsch Med Wochenschr 2007; 132: 1098-1100	頭痛と発熱のため入院し、髄液症候を示した42歳男性 の脳脊髄液および血液培養からグラム陽性菌が検出さ れ、生化学的方法によりStreptococcus suisと同定され た。アンピシリンとセフトリアキソンで治療された。男性は 肉屋で、手や前腕に切り傷を負うことがよくあった。S. sui sによる感染はヨーロッパでは稀であるが、ブタへの職業 的暴露がある場合には考慮すべきである。